

研究所だより

第407号
2019年11月21日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 秋の夕日に照る山もみじ 濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる ^{かえで}楓 ^{つた}や鳶は 山のふもとの ^{すそもよう}裾模様 ”
『紅葉（もみじ）』 童謡・唱歌 1911(明治44)年



～晩秋～

暦の上では「立冬、小雪」。北国から雪の便りが届く頃ですが、まだ本格的な冬の訪れではありません。雪といってもさほど多くないことから、小雪といわれたものだそうです。陽射しが弱くなり紅葉が散り始める頃で、イチヨウや柑橘類は黄色く色づいてきます。次第に冷え込みが厳しくなってきますので、冬の備えをし、体調管理には十分に留意していきましょう。

＝授業の見方・教室の見方＝

（教育ジャーナル2019年10月号）から

一問一答から脱却するには

前は、ペア活動やグループ活動を充実したものにするために必要な条件について考えました。
今回は、そうした条件を満たしたものにすることが可能な具体的な活動例を紹介します。

なぜ「脱一問一答」なのか

1つ言えるのは、一問一答方式で進められる授業は、「主体的・対話的」学びからは、かけ離れたものになるということです。

なぜなら、一問一答で進められる授業では、教師が発問しない限り、子供が発言することはないからです。「非主体的」な状態になりがちであり、しかも、教師の問いに対して教師に答えるだけなので、子供同士での対話にはなりにくい、つまり「非対話的」であるわけです。

ですから、子供たちの主体的・対話的で深い学びを目指すためには、「一問一答からの脱却」が非常に重要になるのです。

「脱一問一答」のステップ

では、どのようにして一問一答から脱し、子供たちが相互に話し合う状態を目指していけばいいのか。その一例として、次のようなステップでの脱一問一答を考えました。

●ステップ1 一問多答に導く

教師が発問に対して、数名の子供が連続して答えるよう、連続して指名する。その際「違います」「ほかには」などと、一問ごとに教師が仕切ってしまうのを、指名した子供が全て発言を終えるまで見守ることが大切。

●ステップ2 一問多答・関係性に導く

ステップ1の複数の子供たちの答えに対して、「違った考えの人は誰だった？」と投げ掛けることで、「～と同じで」「～と違って」「～を詳しく言うと」といった話型を少しずつ増やしていく。その際、教師が「こう言いなさい」と指示するのではなく、問いを繰り返すうちに、子供たちが自然にそうした言い方を使うようになる、というようにして、子供たちが主体的に新たな話型を身につけていくよう促すことが大切。

●ステップ3 一問多答・話型の活用を導く

子供たちが発言する際に、それまでに発言した子の発言内容との関連性を述べてから発言する（「～と同じで、〇〇と思います」「～と違って、△△と考えました」「～を詳しく言うと、□□です」など）ようにする。

ステップ2で、子供たちが身につけた話型を掲示し、関係性を述べるときに参照できるようにしておき子供がそれらの話型を使いこなせるようになったら掲示を外す。

●ステップ4 一問多答・子供相互の質問・促し・言い換え等を導く

「〇〇さんの言いたいことわかった？」と問い、「〇〇さんに質問します」「〇〇さんの言いたかったことは、△△ということですか？」などの言葉を引き出す。こうした話型も提示しておき、使いこなせるようになったら、掲示を外す。

●ステップ5 子供の発問・多答へ導く

子供たちの主体的・対話的な学びでは、子供の問いが重要になる。教師が問いを発している限り、本当の主体的に学ぶ力は育たない。常に子供から学習課題に直結する問いが生まれことは難しいと思われるが子供から価値がある問いが生まれるような手立てを打ち、子供からクラスの子供たちに問い掛けるような学習場面を増やしていきたい。

そのために、課題設定の工夫や、グループやペアでの学習場面で子供の問いについて、他の子が答えるようにすると、あるグループが発した問いや提案などについて、他のグループが議論する場面などを設ける。

また、この取組では、以下のような点に注意が必要。

- ・答えが1つだけしかない問いでは、一問一答に陥りやすい
- ・各自が考えをもっていない場合や、手を挙げた子のみを発言者にする場合、一部の子供だけの参加に陥りやすい
- ・発言の仕方や考え方についてモデルを示し全員がそれを身につけるようにしない場合、一部の子供だけの参加に陥りやすい
- ・教師が子供の発言を繰り返したりまとめたり、発言をすぐに評価したり、方向性を決めたりしてしまうと、子供の発言が絡まない
- ・人間関係が悪いと子供の発言が絡まない



（図1）一問一答から脱却するためのステップの一例。
子供の問いに子供が答えるような場面を増やしていくことを目指す

☆第2回教育研究所運営審議会

11月5日(火)に第2回教育研究所運営審議会を開催しました。
本年度前期(4月～10月)の主な事業の取組として、下記の9項目について報告・協議をしました。

- (1) 教員の資質・指導力の向上の取組について
 - ①転入教職員研修会の開催(6/7)
 - ②研究協力校を中心に各校の公開授業・校内研修会等への参加
- (2) 授業力・指導力の向上の取組について
 - ①教育推進委託事業：教研(組織5/8、一日8/7、半日11/6、総括)活動
教研推進委員会の運営(①4/11 ②7/2 ③8/6 ④10/3 ⑤12/16 ⑥2月予定)
 - ②教育調査研究委託事業：研究協力校3校(三崎小・幡陽小・足摺岬小)
研究員・グループ1団体(特別支援教育研究会)への支援
 - ③学力向上検討委員会(連携事業)への参加・支援(①9/19 ②調整中)
- (3) 豊かな心と健やかな体の育成の取組について
 - ①定期的な学校訪問(市内の現状)
 - ②適応指導教室「あすなろ教室」との連携(利用児童生徒・卒業生の状況)
 - ③教育支援コーディネーター「あすなろネットワーク」連絡協議会の開催
(年5回：①5/21計画 ②6/27事例研修(講師招聘) ③8/23事例研修(講師招聘)
④11/18事例研修(講師招聘) ⑤1/23総括)
- (4) 特別支援教育支援について
特別支援教育研究会の活動(親子交歓会等)に参加
- (5) 情報教育に関する事業について
HPの作成・更新等の支援
- (6) 資料収集に関する事業について
教育資料・DVDの購入と紹介(研究所だより・HPで周知、会議室展示)
- (7) 刊行物
 - ①研究所だよりの発刊(4月・400号～11月・407号)
 - ②社会科副読本「土佐清水市の暮らし」(3・4年生用)の増刷・配布
 - ③郷土の偉人「中浜万次郎」副読本編成委員会の開催について(現状報告)
(低学年：紙芝居、中・高学年：絵本① 絵本②、中学生：万次郎関係書籍文献集録集の作成)
- (8) 教育研究所運営審議会について
(年3回：①6/4計画 ②11/5前期実績 ③3月予定年間実績)
- (9) 教育研究所連絡協議会について
(年2回：①春季連絡協議会5/24 ②秋季連絡協議会10/10)

研究所の事業を進めるに当たり、多くのご教示・ご示唆を頂きましたので、後期の教育研究所の運営、研究推進に生かしていきたいと思ひます。



<第69次土佐清水市教育研究集会・半日教研特集>

11月6日(水)に各部会研究授業を主体とした半日教研が開催されました。それぞれの部会で研究授業や講師招聘しての研修、日々の実践交流等、活発な研究協議や情報交換ができたものと思われます。
部会の公開授業・研究協議等の様子を紹介しします。

〔国語部会〕(清水中)
3-1「いにしえの心と語ろう」



〔社会科部会〕(足摺岬小)
5年「水産業のさかんな地域」
6年「戦争と人々の暮らし」



〔理科部会〕(幡陽小)
5年「電磁石の性質」



〔外国語部会〕(清水中)
1-2「Program 8 Origami」



〔図工部会〕(清水小)
4-2「おうちの人にコースターをつくってプレゼントしよう」



〔体育部会〕(清水小)
6-1「陸上競技：ハードル走」



◇図書紹介!◇ ぜひご利用ください。

- ①学校教育・実践ライブラリ Vol.7
『思考ツールの生かし方・取組み方』
授業を「アクティブ」にする方法 (ぎょうせい)

= 提出物について

○各部会

- * 部会決算書提出 12月24日(火)
- * 事業実績報告書 1月27日(月)
- * 総括教研部会報告書 1月27日(月)
- * 研究集録原稿 1月27日(月)

○研究協力校

- * 研究集録原稿
- * 決算書・実績報告書

